

平成30年度 第2回 学校運営協議会 議事録（要旨）

- 1 日 時 平成30年11月28日（水） 16:00～17:00
- 2 場 所 校長室
- 3 出席者 栗野会長、真銅副会長、乾委員、宇田委員、豊田委員、村田委員
檜崎校長、芥川教頭
その他教員 4名

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 会長あいさつ
- (3) 平成30年度学校経営計画および学校評価の進捗状況について
- (4) 平成31年度使用教科用図書の採択について
- (5) 閉会

5 協議・意見交換

＜平成30年度「学校経営計画および学校評価の進捗状況」について＞

中期的目標として4つの大項目から、重点となるポイントについて説明する。

I 教育課程の編成

- ・高等学校の学習指導要領が平成34年度に全面実施になる。平成31年度から順次実施していくことになるので、それを見据えた教育課程編成が喫緊の課題である。
- ・次年度より、シラバスの公開に向けて各教科で検討している。
- ・「共に生きる障がい者展」に接客・販売で学んだことを発表する機会があった。

II 組織力の向上

- ・教員アンケートの結果が目標の70%を下回っている状況であり、現在改善に向けて検討している。
- ・働き方改革に関して、府下全校園で目標設定することが義務づけられている。年度当初に比べると時間外勤務は減少傾向にあるが、職場実習や各行事、生徒指導への対応が時間外となるケースもある。産業医との面談などを行い、メンタルヘルスへの配慮を行っている。

III 進路指導・生徒指導の充実

- ・現場実習での経験を次の実習にどのように生かすかを、生徒と職場、教員とのやりとりのデータを蓄積している。
- ・デュアルシステムでの実習は、現場実習とは異なる形態での取り組みで、多様な生徒の実態に対応することができている。
- ・卒業生の定着支援を進めているが、そこから得た情報を在校生の指導に役立てるようになっている。

IV 地域、関係機関等との協働

- ・文化祭や避難訓練などの行事を、企画段階から教職員が協働して取り組むことができた。
- ・共生推進教室設置に向けて、設置校と開設準備に関する検討を始めた。
- ・高等学校との交流学习だけでなく、共生推進教室設置校との部活動などでの交流を検討して

いる。

[協議]

委員：アフターフォローは教員のみで実施しているのか？

教員：地域の就業・支援センターの方に同行いただき、職場の方とケース会議を行っている。

委員：地域への移行はどのような形で進めるのか？

教員：定着支援を3年間で計画しており、少しずつ地域との連携を深めていく予定。

委員：定着支援の際、調査項目などを設定しているのか？生活面でのサポートをどのように行うのか？

教員：家庭の状況に応じて相談支援事業所と連携をとるようにしている。

委員：何か心配なことがあれば公的機関に相談することが基本になるが、本人がどうすれば相談できるか、その方法を知ることが大事。メールやLINE、匿名での相談を受け付けているところもある。職場でしんどいことがあっても就労を続けるためには、余暇活動をどのように過ごせるかが重要になる。心理相談をしていると、休みの日をどのように過ごしているか言えない生徒が多いと感じる。

校長：企業の方と話をしていると、職場定着できる者は余暇を上手に過ごしているという意見を多く聞く。本校でも同窓会や部活動などで余暇を充実できるようにしている。今後、文部科学省もスポーツ等の生涯学習への支援に取り組み始めている。

<平成31年度教科用図書採択について>

校長：前回の運営協議会で説明したように、別紙一覧のとおり、各教科で3年間を見据えたシラバスを実施するために必要な教科用図書という観点で検討し、平成31年度に使用する教科用図書を採択した。

[協議]

特に意見なく、原案通り承認された。

<まとめ>

校長：次回の運営協議会で今年度の学校経営計画のまとめを行い、次年度の計画を承認していただくこととなります。